

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05563・19K20773

研究課題名(和文) 劇作家岸田理生の1990年代日韓演劇交流史研究

研究課題名(英文) The Study of Korean-Japan Theatrical Exchange in 1990s especially concerning a Playwright Rio Kishida's activity

研究代表者

岡田 蒔子 (Okada, Fukiko)

大阪大学・文学研究科・助教

研究者番号：40823779

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では1990年代に劇作家岸田理生がどのような問題意識を持ち韓国演劇界と交流したのかを、聞き取り調査と韓国での資料収集、作品分析を通して検討した。そのことで、岸田が韓国への関心の背景にある私的な交流の様相が見えた。また、岸田に関する資料は個人所蔵のものが多く、資料の所在が一般に公開されていなかった。その状況では、岸田の作品に関心のある研究者が資料にアクセスすることが難しいため、岸田の資料の所在を一般に公開することを目指し、調査と整理を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

劇作家岸田理生の研究は1980年代のものが多く、90年代の研究はほぼ行われていない。本研究は、まず岸田の基礎研究として学術的に意義がある。さらに、日本の小劇場界と韓国小劇場界との草の根的な初期の交流史の一端が明らかになり、今後の日本演劇文化研究と文化交流史研究へとつながる。また、資料のアーカイブとウェブ公開に向けての調査と整理は、資料の散逸を防ぐ点と後続の研究者や岸田作品に関心のあるひとびとの資料へのアクセスの簡易化につながる点で、社会的に意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this study, I examined what kind of problem consciousness the playwright Rio Kishida had in the 1990s and interacted with Korean culture through interviews, resource acquisition and analysis of works in Korea. As a result, I saw the aspect of private exchanges behind Kishida's interest in Korean culture. Besides, many of the resources related to Kishida were privately owned, and the whereabouts of the resources were not open to the public. In that situation, it is difficult for researchers who are interested in Kishida's work to access the resources, so I conducted an investigation and arrangement to make the whereabouts of Kishida's resources available to the public.

研究分野：演劇学

キーワード：日韓演劇交流史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 劇作家岸田理生の作品研究は80年代の作品研究が主であり、70年代90年代を含めた作品研究は不十分であった。その状況を打開すべく申請者は博士論文で劇作家岸田理生の初期から晩年期の諸作品を対象とした初の本格的な論考を書いた。その執筆過程で、90年代に岸田が日韓交流の中で日本の戦争責任の劇化への問題意識や葛藤を持った点を重要だと認識したが、資料不足により作品分析を通して演劇学的に彼女の問題意識を検討することは叶わなかった。そのため、本研究では韓国での資料調査・収集を行い、日韓演劇交流の初期の状況を明らかにすると共に、作品研究を通して岸田の問題意識がいかに劇化されたのかを分析するという着想に至った。

(2) これまで申請者が研究に用いてきた資料は個人が所蔵・保管しているものが多く、申請者との関係性に依拠する形で使用許可を得てきた。しかし、所在が一般に公開されていない状況では、岸田の作品に関心のある研究者が資料にアクセスすることが難しい。また、保管者の状況により資料が散逸する可能性もある。本研究課題では新しく資料を収集するが、その資料と共に、過去に収集した資料や借用した資料を含めて、整理を行い、アーカイブ化を行い、一般に公開する計画を研究課題の中を含めた。

2. 研究の目的

(1) これまで岸田理生の作品研究は個々の作品研究に留まっており、その状況打破の為に申請者は岸田の初期から晩年期までの作品を通史的に扱い博士論文として纏めた。一方で、岸田と韓国との関係の重要性を認識しつつも、博士論文では資料不足により調査不十分のままであった。

本研究課題における学術的問いは、90年代に岸田がどのような問題意識を持ち韓国演劇界と交流し、どのような戯曲を書いたのか、という点であった。岸田が演劇活動を始めた70年代は、在日韓国人問題や韓日関係が主題の一つとしてあったが、当時の彼女の作品にはそれらが意識された痕跡はない。一方で、90年代以降の岸田は韓国に関心を持ち、朝鮮語で戯曲を書くまでになる。70年代以降継続する岸田の言葉を巡る関心が、80年代の女性史への関心を経て代表作『糸地獄』での見事な詩的劇世界に展開した後、なぜ90年代に朝鮮語へと向かったのか。何を韓国で上演し、その反響はいかなるものであり、岸田の問題意識はどこにあったのか。

本研究ではそれらの問いに関連する資料収集を行い、博士論文で不明瞭であった1990年代の岸田と韓国演劇界との交流を、演出家金亜羅との関係性を軸に検討し、戯曲分析を通して明らかにすることを目的とした。

(2) 研究に用いる資料は個人所蔵のものが多く、資料の所在が一般に公開されていなかった。所在が一般に公開されていない状況では、岸田の作品に関心のある研究者が資料にアクセスすることが難しいため、岸田の資料の所在を一般に公開することも目的とした。それは日本の小劇場演劇を今後研究する際の礎ともなると考えた。

3. 研究の方法

(1) 本研究では90年代に岸田がどのような問題意識を持ち韓国演劇界と交流し、どのような戯曲を書いたのか、という問いを、聞き取り調査と韓国での資料収集、作品分析を通して具体的に明らかにしようと試みた。一年目には韓国を訪問し諸関係者への聞き取りを行うと共に、ソウルの前衛的小劇場「恵化洞一番地」に招聘されて、岸田が旧知の俳優・スタッフと共に創り、上演をした作品『二人ぼっち』(1995)に関わる資料の収集を行い、パンフレットや台本などを集めた。二年目には韓国を再訪問し、前年度確認できなかった『人間リア』(1998)関連の資料の収集にあたった。集めた資料は研究協力者に依頼をして翻訳し、分析を行った。

(2) 資料を一般公開するための問題点を調査すると同時に、岸田に関する資料の保管者と共に、一般公開用の資料の選定を進めた。

4. 研究成果

(1) 聞き取り調査により、岸田が個人的な関係を紡ぎながら人と出会い、韓国文化についての知識を得、日韓の歴史に関する問題意識を深めていった過程が明らかになった。ただし、その関係性は作品上演を前提とした交流というよりは、同時代に生きる女性として、また創作者としての私的な連帯感によって形成されたものであった。この点は岸田が韓国に関心を持った理由として重要であると認識をしたが、当該関係者の岸田との私的な関係性の中での出来事であるため、聞き取り調査により得られた事実を研究のための素材とすることは現時点では難しいと判断した。この点は当初予期していないことでもあったが、今後時間をかけて、当該関係者との関係性を深めつつ、得られた知見を考察に生かす形を検討していきたい。

資料の収集に関しては、残念ながら岸田が韓国で上演した舞台に関する批評資料を見つけることはできず、上演の様子はわかるものの、当時の韓国演劇界においてどう受容されたかを伺い知ることは難しかった。一方で、岸田が韓国の演出家に渡した『人間リア』(1998)の上演台本と当時の映像、批評等を確認することができたので、シンガポールの演出家のために書いた岸田の元戯曲『リア』と、演出家の変更を加えた上演台本版の『リア』の戯曲との比較検討を行った。

その結果、日本とシンガポールと韓国の 1990 年代と社会状況が各台本の違いとして現れていることと、特に上演環境と演出形態の関係性が要点となっていることが明らかになった。研究成果は演劇とエコロジーをテーマに挙げる国際学会で発表する予定をしている。(COVID-19 の影響で学会は 2021 年度に延期された)

(2) 集めた資料は、現在国内で保管されている資料と共に整理をして、後に調書・目録・撮影画像の形で一般公開するための下準備を行った。本来ホームページを公開する形で成果とする予定であったが、資料の保管者以外に資料に関わりを持つ劇団員や関係者が多く、全員の公開内容に関する意見を完全に調整・統一をすることが間に合わず、現在はまだホームページは未公開の状況となっている。継続して調整を進め、整い次第順次公開していく予定をしている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Okada Fukiko, Kim Yun Jeong |
| 2. 発表標題 King Lear from an Ecological Perspective: Comparisons between Kishida Rio's Lear and Kim Ara's Lear the Man |
| 3. 学会等名 International Federation for Theatre Research (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>「劇作家岸田理生作品アーカイブ」(http://kishidario-archive.net/)公開内容等に関して調整が完了していないため、現在は未公開の状況となっているが、整い次第公開していく予定である。</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|